

令和3年第1回

かほく市教育委員会議事録

令和3年1月20日

議 事 録

令和3年第1回かほく市教育委員会議事録		
招集年月日	令和3年1月20日（水）	
招集の場所	かほく市役所 301会議室	
開 会	令和3年1月20日（水） 午後1時30分宣告	
出席委員	教育長 山 越 充	
	教育長職務代理者 山 本 滝 男	
	松 井 三枝子	
	長 柄 悦 子	
	鮎 野 武 利	
欠席委員	なし	
説明のため出席した者の職氏名	教育部長 山 口 吉 男	
	学校教育課長 本 山 久美子	
	生涯学習課長 新 田 陽 介	
	スポーツ文化課長 折 戸 靖 幸	
	学校教育課参事 北 川 直 紀	
	学校教育課指導主事 中 島 美 穂	
	教育センター所長 西 尾 康 弘	
会議に職務のため出席した者の職氏名	学校教育課 主事 宮 本 理 央	
議事録署名委員の指名	教育長は、議事録署名委員に次の2人を指名した。	
	松 井 三枝子	長 柄 悦 子

会議に付した事件並びに審査結果	議案番号	件名	結果
	議案第1号	令和3年度かほく市教育目標について	継続審査
	請願・陳情番号	件名	結果
		案件なし	

協 議 ・ 報 告 事 項
(1) 第17回かほく市成人式参加状況について (2) 令和2年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費1月認定結果について (3) 特認校制度について (4) 学校訪問のまとめについて

開 会

【山越教育長】

令和3年第1回かほく市教育委員会を開催します。

議事録署名委員の指名

【山越教育長】

議事録署名委員の指名をします。署名委員として松井委員、長柄委員を指名します。

前回議事録の承認

【山越教育長】

前回の議事録の承認ということで、事務局より説明願います。

【本山学校教育課長】

(12月16日開催の議事録にて説明)

【山越教育長】

前回の議事録について何かご意見、ご質問はありますか。

(意見・質問なし)

【山越教育長】

ご意見等ないようでありますので、前回議事録は承認されました。

教育長の報告

【山越教育長】

それでは、教育長の報告をします。

新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が現在11都府県で発出されており、石川県内においても、成人式後の会食クラスターというのも複数で発生しており、高止まりということでもあります。今後の推移を注視していきたいと思っています。

今のところ、かほく市の会合やイベント等の取扱いについて規制を強めるというような動きはありません。

このような中で1月6日に各学校の保護者宛に感染予防の徹底と情報提供依頼を通知させていただきました。また、県内でも学校職場内での感染があったということで、学校職場内での感染防止対策の徹底についても改めて通知をさせていただきました。

また、1月8日から11日にかけて3年ぶりの大雪になりました。かほく市でも多いところで90センチを超える積雪がありました。県内では複数の自治体で12日は休校という措置をとったところもありましたが、1月9日から11日まで3連休ということもあり、除雪が進み、かほく市については、スクールバスは運休したものの、学校を休校することなく対応できました。参考までに「いいメールかほく」で雪が多い場合は無理に登校しなくても欠席扱いにしませんという通知を出したところ、70名を超える欠席者があったということです。また、12日に予定していた1月の校長会も中止とさせていただき、書面のみ各校長に配布したところでもあります。

また、1月10日に加賀能登少年剣道大会が予定されていましたが、主管の剣道協会

と協議のうえ、選手、審判、役員の輸送に安全が確保できないということで中止もしくは順延ということで決定させていただきました。

前回12月16日の教育委員会以降、この1ヶ月で開催された主なことについてご説明します。12月19日に、県の事業なのですが、中能登地区の県政懇談会が哲学館で開催されました。知事、部局長、県の担当者等が出席して中能登地区の女性会の皆さんと政策懇談をしております。

12月26日には哲学館でクリスマスコンサートを実施し、約150人の参加者がありました。

年が明けて1月7日には、金沢教育事務所の指導課長、指導主事から今年度の学校訪問のまとめについて説明を受けました。これについては後ほど指導主事の方から説明させていただきます。

1月10日の成人式、参加等については後ほど事務局の方から説明します。

また、1月14日には市PTA連合会が、かほく市ネットルール共同宣言のクリアファイルを作成したということで、教育関係団体だけでなく市、町会区長会や議会にも周知してほしいということで、市長のところに広報活動に来ています。

1月14日、15日、18日そして明日、4日間に分けて金沢教育事務所からの学校訪問のまとめの報告を受けて、私と課長、指導主事そして各学校の管理職と、このことについて面談をさせていただいています。

最後に成人式について、今年の成人式において新成人の代表者であったにも関わらず、式典中及び式典前後の行動で成人としての自覚が無い幼稚な行動、見苦しい服装が見受けられたことは教育長として誠に遺憾であります。彼らには猛省を促したいところがあります。また、事務局には来年度以降に向けて、その原因をしっかりと点検し、式典までの進め方や当日の対処などについて改めて検討をしていただきたいと思います。

以上で教育長の報告事項とします。何か質疑等ありましたらお願いします。

【松井委員】

成人式の話ですけれども、代表の子たちの様子を見て、すごく危惧していたのですが、最後の代表者が自分の言葉で表明したのか、仕事をしながら自分がそこで学んでいくことが多いという言葉聞いて、会場がシーンとなったという雰囲気を感じながら見ていた。それはそれとして、教育長が言われた今後の式典の在り方ということで、かなり検討してかなくてはならない。

司会の子たち、司会の流れというのも原稿を誰かがアドバイスしているのか、昨年原稿を見ながら彼らが作成して、あの流れになっているのかということを確認したい。

【新田生涯学習課長】

司会については、式次第に合わせたものを基にして、生涯学習課で作ったものを彼らに渡しています。

【松井委員】

私が違和感だったのは、祝電披露で普通は選挙区の人が先にくるのではないかと。今までずっとそうしてきたので、どういうことなのか。ずっと今までの流れできているものとして、あるいは選挙で私たちが認めているという流れからすると不自然なような気がした。こういう式典に関してのそういうものを教えてあげなきゃいけないと思ったので、子どもらが単なるあいうえお順で読んだのかなと思ったりしたので確認した。

【新田生涯学習課長】

その点につきましては、確かに結果としてあいうえお順になってしまい、こちらのチェックが最終的にしっかりできていなかったということです。

これに関しては来年度からは、最終的なチェックも当日ぎりぎりまでしたいと思いません。申し訳ございません。

【松井委員】

子どもたちと一緒に作り上げていく式というのは、これから大事だなと思っているのですが、法的に云々というよりも選挙人としての感覚が問われると思ったので、そういうことも教えていかななくてはならない。その辺の最終チェックというか子どもたちの話し合いの中でのチェックの仕方というのも含めていければいいと思う。

【山本教育長職務代理者】

私は雪で家から出られなかったの、成人式に出席できなかったのですが、代表の中で良からぬ行動や服装があったというのは？

毎年、心配するような子は必ずでてくるけれども、そんなことがあったのか初めて聞いた。

【松井委員】

今回は、代表者がああいう形で参加するというのは初めてなのかなと思う。

今までは代表者はきちんとしていた。前に陣取っていたのが代表者だという感覚が私は無くて、後でそれが代表者だと聞いて、どんな形で人選したのかなというのが気になったところです。子どもたちの話し合いの中で出てきたらと思うのですが。

【山越教育長】

そういうところも含めて、成人式が終わった翌日からその話は市役所の中でもありませんし、松井さんがおっしゃったとおり、代表者の人選も含めて、先ほど式典までの進め方とかをしっかりと事務局の方も責任を感じてやってほしいということです。

翌日の新聞にシャンパンを抜いて・・・と書いてありましたが、その中で新聞社の記事は非常に優しく書いてあった。新成人が作り上げる会であって市役所の職員は自覚を持った行動をしてほしいという言い方で新聞社は記事として書いていただきましたが、やはり今までの流れを見ていて、先ほど新田課長はチェックが足りなかったと言っていたが、それが結局、新成人が作っていて職員がチェックしているという言い方だけれども、新成人は最後の御礼の言葉の中で一文を新成人が自分の言葉を入れることはあるが、司会とか宣言文は事務局が作っているのだから、そこは我が事としてしっかりチェックしていかなければならない。

【山本教育長職務代理者】

新成人は時間どおりに入場できたのか。

【新田生涯学習課長】

10時までには、ほとんどの送迎が落ち着いたので、時間通りに開始させていただきました。

【松井委員】

教育長に収容人数から考えて、私らが行ってもコロナは大丈夫なのか確認の電話をしました。いつも玄関が人でいっぱいになっていたのが、今回はきちんと整理されて、すごく事務局は感染症対策を打ってくれたのだろうなと感じました。子どもたちも協力し

て動いてくれたのだと思う。すごく気を使いながらスムーズにいったのだと思います。

【山越教育長】

受付を分散させるため、宇ノ気地区の受付を2階にしたため、後列にばかり成人者が座ってしまって、前列が空いてしまい、そこに代表者が前列2列に固まって座っていたという状況になってしまった。そこが会場の中の改善点。どうしても雪が多かったので外に配置する職員の数が多く、会場案内の人員が少し足りなかったかなと思う。

【山本教育長職務代理者】

代表者は公募で募るのか。

【新田生涯学習課長】

学校ごとになるのですが、河北台中学校と宇ノ気中学校は卒業の時に代表を決めているので、その子たちを中心に集まり役割を決めている。高松中学校はそういう代表者がいないので、自主的にとりまとめようという子が出てきています。

【山本教育長職務代理者】

ある程度、核となる成人者が何人か誘って役割を決めればいいと思うが、そうでない者がぱっと入ってきて仲間を誘うということになるのかなと思いました。

その辺のところ、軸になる者をきちんと決めておいた方がいい。

【山越教育長】

これを一つの教訓として、そういう体制をしっかりと工夫していかないといけない。その他、ご意見がなければ、協議・報告事項に入ります。

議 件

議案第1号 令和3年度かほく市教育目標について

【山越教育長】

それでは、議案第1号 令和3年度かほく市教育目標について、事務局から説明願います。

【本山学校教育課長】

かほく市教育目標にかかる学校教育の重点目標について、5項目を設定するものです。
(内容を説明)

【新田生涯学習課長】

生涯学習の重点目標を5項目とするものです。
(内容を説明)

【折戸スポーツ文化課長】

スポーツ・文化の重点目標を5項目とするものです。
(内容を説明)

【山越教育長】

まず、学校教育に関する重点目標について、委員の方から質問、ご意見はありませんか。

【山本教育長職務代理者】

児童生徒のICTの効果的・積極的活用、去年はICT環境の整備ということで、一歩進めたということと、今年度は外国語教育の推進というのが入っていたのですが、来

年度は外国語教育が抜けているというのは何か理由がありますか。

【北川学校教育課参事】

まず外国語教育が記述されたのは、学習指導要領の改訂により、教科になるということで、その準備段階からしっかり取り組むということで、目標に掲げてきました。当然、外国語は引き続きやっていきますが、外国語は既に教科化され、通常の教科と同様にやっていきますということで外国語は消してあります。

今年度、児童生徒一人一台端末を整備し、来年度はその活用ということで、少し特化した記述としているところであります。

【山本教育長職務代理者】

現在、外国語については、宇ノ気中校区で研究推進をやっているわけですが、その研究推進の成果が表れたと捉えて、消えたのならいいなと思っている。

小中連携した外国語の推進ということで、それがある程度の成果が見えたということで、他の教科と並列した形で納めることにして、特化した形に今年はないということですね。それなら、ある程度成果が出たということになれば次の段階ということで英語だけじゃなくて他の教科も取組んでいかなければならない。やはり外国語教育の研究推進までして取り組んできたものを更に発展していくということで、やはり一つの目標として掲げた方がいいのかなと思っていた。

【松井委員】

山本委員が言われたように昨年度のものどれくらい達成したか考えてほしいなと思う。昨年度は小中連携した外国語活動ということで「小中連携」という言葉が入っていたと思うのですが、それを見通した中での活動として充実させていくのですか。思うような結果が出ないまま先生方もすごい悩みながらきたと思うのですが、それがすごく大事なことだったのかなと思っています。

これも山本委員がずっと小中連携は具体的にどこまで見通しているのかという話をされたことがあったと思うのですが、外国語教育だけじゃなくて、かほく市全体として小中連携というのを教育の一本筋が通ったものが必要なのかなと思いました。だから昨年までの小中連携した外国語活動をどう伸ばしていくかというのがすごく大事なことだったのだなというのを思いながら来年の教育目標を見ました。

また、今回、図書館司書が入ったことによって、読書についてさらに充実させていこうという方向に持ってきていくのだろうと思う。昨年までは読書週間の定着でしたね。今、定着から司書を活用した形でいこうとしているのかなと文面を見ながら自分で判断した。

2番目のICT活用で、だからどうしてほしいという案は、私はわからないのですが、小中連携というのをどこかで意識して活動していくのが大事だなと、どういう形で活かしていけばいいかわからないのですが。

それと社会的自立に向けた支援の充実とあるのですけれども、中身は保護者への支援や適切な働きかけの実施となっていますけれども、昨年は確か相談活動の充実だったと思うのですが、相談員との相談活動の充実がどこまで思ったような形でいって、それをさらに進めていけばいいなことなのかと思いました。

【本山学校教育課長】

昨年の児童生徒の相談体制の強化ということで各校区に1名ずつ相談員が入りました

が、相談員の教育体制はかなりスムーズにしていると判断しています。それを踏まえて、次に社会的自立につなげていきたいというふうに考えてこのような文面にしました。

【山本教育長職務代理人】

言葉尻を捕らえるようなのですけれども、教職員の働き方改革の徹底というのにして、昨年が推進となっていたものが徹底ということになると学校も相当な覚悟でやらなければいけないし、教育委員会にしてもかなり強く指導していくことが求められるのではないかと思います。どんな見通しを持って重点目標を捉えていけばいいですか。

【北川学校教育課参事】

3月の教育委員会の時に、学校管理運営規則の改正も含めてご提案をさせていただきますが、文科省の方からは教職員、事務職員の職務を各市町で規定をして明確化した組織的な取組が求められています。そういったこともあり、徹底という言葉に変えています。

【山本教育長職務代理人】

市の方針に向けて徹底ということになると、かなりの学校現場にとっても厳しいだろうし、教育委員会として徹底させるためにどういう指導をしていくかということもポイントになってくると思うので、やはりかほく市の方針がある以上は、方針に向けて進んでいくのが徹底になってくるのではないかと思います。かなり強い覚悟でやらなければいけないのかなという受け取り方をしてしまうので、お互いに苦しいかなと感ずるのですが、どんなものですか。

【北川学校教育課参事】

先ほど言ったほかにも、来年度は学校には校務支援システムが入ります。一人一台端末の導入によっても、今まで丸付けしていたものが、デジタル教材になってとかそういった運用の仕方を十分徹底して活用するなど、この辺については徹底という言葉を経験して先生方の意識を変えていくしかないと思います。そういったことをしないと絶対に目標を達成することはできないと思っています。

【山本教育長職務代理人】

徹底としたときには本気になってやらないとだめだと思うので、それだけ教育委員会も本気で指導したり支援したりできるのかどうか。学校もそれを受けて真剣にやるのかどうかというところである。どの程度の覚悟なのかという。これを謳ったらやはり学校側に対しても強い働きかけをしていかないと学校も動けないと思うし、学校もそれで縛られたら逆に窮屈になって精神的な苦痛の方が多くなっていくとなると本末転倒になってしまうので、あんまり締め付けないということではなくて、皆で機運を高めてやっていけるような指導なり支援がなかったら徹底ということには結びつかないのではないかと。徹底という言葉を使ったからには本気でやってもらわないといけないのではないかと思います。

【山越教育長】

これは、国において、給特法の改正及び上限指針の告示で超過勤務月45時間、年間360時間を上限とされています。今のところ県からは指示はありませんが、この目標をどう表現しようが、この目標があろうがなかろうが、法律でそれぞれの管理規則で定めなさいとなっている。

法律がそうになっている限りは何らかのアクションはこれからしていかなければならな

いということはありません。

先ほど松井さんからありました、相談体制の強化、社会的自立に向けた支援というのは、私の解釈では相談体制をきっちり整えるというのは行動目標であり、今回の社会的自立に向けたというのは、まさに何のためにやるかという目的を目標にしたということでもあります。表現の仕方を自分たちが行動することを重点目標にするか、最終的に行動した結果を目標にするかの違いなのかと思って、今回の目標の方がいいかなと思っている。

先ほど言っていた小中連携について、確かに小中連携はとっても大事なことだと思います。外国語に限らず、特に9年間でというのはとっても大事な取組なのかなと思う。教科でいうと外国語もそうですし、総合とか、もちろん国語、算数、理科、社会もそうなのですが、そんな中で外国語という言葉が今回外れたということは、先ほど山本委員の質問に、北川課参事も答えていましたが、学習指導要領が改訂され、来年度、小学校は2年目になるということで、他の教科にならい特別な扱いをしないということで外国語が消えたということ。小中連携というのは教育目標とか過去にも何回かいろんなところに出てきていましたが、小中連携は大事なことなのですが、それは少しまた文面の中に盛り込めるかどうかというのは検討をしていきたいと思えます。

【山越教育長】

生涯学習に関する重点目標について、委員の方から質問、ご意見はありませんか。

先に言いますが、社会教育の活性化につなげる地域教育力の向上というのは日本語がおかしいと思いませんか。社会教育の活性化と地域教育力の向上は一緒な意味というかどうか思えますか。

【新田生涯学習課長】

去年は学校、地域、家庭の連携による地域教育力の向上でした。

【山越教育長】

それは手段と目的が順列に並んでいるような気がする。社会教育の活性化と地域教育力の向上は変だと思ったので先に言わせてもらいました。

また、地域コミュニティの活性化に向けた公民館活動の推進というけれども、公民館活動は地域コミュニティの活性化の目標の半分ではないか。公民館活動というのは個の学びとかの部分もありますよね。せっかく公民館のいろんな社会教育策を検討してもらっているのを、もしかして事務局の方も社会教育委員さんと話しをされていることが、地域コミュニティの活性化という側面だけを捉えた検討をしているのか心配になってきた。公民館活動そのものは、個の学びは当然やっていくのだけれども、地域コミュニティの活性化のために公民館活動を推進していくことを特に強めたいのかなと思った。

【松井委員】

3番の公民館についてはずっと問題にされている。どこまで協議がすすんでいるのかとか、各地区公民館間の平準化というのがあるのですが、実態としては高松地区の方が他の地区とちょっと違った構成だということで平準化ということをしているのですか。

【新田生涯学習課長】

公民館の形態自体とか公民館を利用している状態自体とかが3地区違っていました。それを整理できればというか、同じような状況に持っていけるかという部分で社会教育委員さんの方には改めて現状はこういう活動になっていますと説明させていただいてい

ます。

【松井委員】

それは地区の方から公民館運営に関わって、こういうふうにかほく市全体が変えた方が活性化できるのでないか、活動が上手くいくのではないかというふうに出てきたものなのか、事務局として予算配分とかそういうことをするうえで、やりやすいように上から考えていることなのかどうなのですか。

【新田生涯学習課長】

合併の時に既に違っていた状況があって、それを調整する中では一気に切り替えることができなかつたので、追々といいますか同じような状況に持っていきましょうという形でなかなかできない状況が続いている。今おっしゃったように補助金とか流れている違いとかは確かにありますので、そういう部分に関してはなるべく同じようにしていければということは思います。

【松井委員】

どうした方が地域にとってはいいのかなという地域からの声というのが私には見えないうし、私は自分の地区としては長年やってきている形でいく方がいいのではないかと思います。

新聞を見ていたら金沢市議会でもそういう質問が出ていました。ある市議が市長に公民館を各校区に1館にし、早く統廃合すべきじゃないかという質問を出していました。市長は、長年の各地区に応じた公民館活動がずっと繋がってきていて、そこで地区がそれを良しとしているところがほとんどじゃないかと、だからそれを解消していくのはかなり難しいと答弁していました。

私は、これはやっぱり事務局としてもこういうのがもっといいですよというのがあれば、それを即言ってあげて繋げていかないと、社会教育委員の方でどんな所まで行っているのかわかりませんが、これがずっと繋がっているのととても気になる。どっちの要望から出てきているのか聞いたわけですがけれども、どっちでもなくという感じで受け止めています。

【山越教育長】

事務局には、社会教育委員会の1回目の会議で私が挨拶した内容を理解してほしい。私は教育委員さんに平準化してほしいというようなことは言っていない。どっちかというところ松井さんが言われた金沢市長やかほく市長が言っているような趣旨のことで言っていると思う。

平準化という議論が社会教育委員でされているのなら方向を変えていかななくてはならない。平準化することが、皆がいいと言うならいいのだけれど、それを目的とは絶対にしていないはずで。

【松井委員】

読書環境の充実とあるのですが、この読書環境の充実とはどこまでを思っているのか。多様な学びの機会の提供で何か夏休みの宿題で、今年初めて表彰されてしまったね。

【新田生涯学習課長】

例年、調べる学習コンクールという教室を開いて、参加した人が出すものと手づくり絵本コンクールを小学生対象にという形でやっております。コンクールはその2つをや

っています。後は読書日記というものをさせていただいて、沢山いろんなもので書いた日記を優秀なものは生涯学習フェスティバルの方で展示させてもらっています。

【松井委員】

そういういろんな活動を表彰していく形で、興味を持たそうと思うのだと思う。そこで読書環境の充実というのをどういうイメージで読書環境の充実といっているのですか。

【新田生涯学習課長】

読書環境の中心になっているところは特に中央図書館になるのですが、その整備も含めて、次年度に向けて司書の資格を持った職員に入ってもらい図書や読書に関する質問に対して早く的確に答えていただけるように対応したいという考えをもっています。

【松井委員】

人材をうまく活かすということですか。

【新田生涯学習課長】

そういう意味もあります。

【山越教育長】

読書環境というのは図書館中心の話だけど、別に公立図書館だけのことを言っているわけではないです。学校図書館も含めた話で、確かに学校司書の全校配置は2年目になるから充実というのはさらに2人ずつ配置するののかという話ではないけれども、ここで言っている読書環境の充実を図書館とか多様な学びも図書館だけの学びを言っているのではなくて市民大学とかいろんな生涯学習課で一生懸命やっていること全体を言っている。

図書館のことしか書いてないから図書館の話なのかと思ってしまう。生涯学習というところと確かに課として、課の重点目標というのはなかなか難しいのだけれど、もう少し幅広なのかなといつもそう思っているのだが。

【松井委員】

市民大学校の研修も入れているのか。

【山越教育長】

私のイメージとしては多様な学びの機会、市民大学のいろんな講座とかもっといえば哲学館での話とかも含めたら学びの機会というのはそういうことだと思う。図書館だけの学びということではなくて、私はいつもそういうふうにとっています。ただ青字で書いてあるものが中央図書館の催し物しか書いてないのでそうなるのですが、生涯学習のところはもう少し精度をあげていかななくてはいけないと思います。

【山本教育長職務代理者】

生涯学習の重点目標というのは、市民全体の重点目標ですね。今のような言葉で学校に関連したことも当然ながら出てくるということになるのですね。だから私たちが知るのには生涯学習の中で学校教育と関連するのは何かなというところでこんなふうにかかれていると理解した方がいいのか。

今言われたように読書環境というのは学校の読書環境だけじゃなくて市民全体の読書環境という中で、学校としてはこんなことがあるよというのはここに書かれているという受け取りでいいのですね。

生涯学習というのは非常に書き方が難しいのかなと、学校教育は子どものことを考えて、目標になるのだけれど、生涯学習というのは対象が広い中で、今年はこれをやりま

すよという目標は非常に難しい。

一つのぶれない部分、例えば先ほど言った公民館活動について、今年度は、地域コミュニティの推進のための公民館活動の検討ということで、社会教育委員さんにも諮問するなど検討と位置付けしたわけです。来年度は検討の結果、こういうものが必要であると一つの答申的なものがあった中で、来年度の目標があるということですね。検討から推進に変わったとなるとある程度ベースになるものが明確に持っていないと推進に結びつかないのではないのかなと思う。先ほども言ったように公民館活動でも非常に広い中で全てのことを網羅した形で進めようというのはなかなか難しいことなので、来年度は、これを重点目標としてやるよということで地域コミュニティに絞ってやっているのだというものを見せてくれればいいのではないかなと思います。

【山越教育長】

スポーツ文化に関する重点目標について、委員の方から質問、ご意見はありませんか。

【山本教育長職務代理人】

今年度は、パラリンピックをイメージしてパラスポーツを体験するという動きでしたが、次は障害者スポーツの普及にシフトしていくということですね。

【山越教育長】

私は、アスリートと聞いたらレベルの高いということなのか、単なる競技者、選手ということなのか。

【折戸スポーツ文化課長】

単なる競技者という意味で使っています。

【山越教育長】

普段好きでやっている人をアスリートと言わない気がするのだけれど、ということは折戸課長から言うとそういう人達をレベルの高いというか、そういう人達をというイメージでこの文書を書いているのかなと思いました。

【折戸スポーツ文化課長】

この文書は両方含んでいます。単純にスポーツ競技者全体を意味して、アスリートを使っています。

【山本教育長職務代理人】

トップスポーツをやっている人は、トップアスリートですね。

【山口教育部長】

トップアスリートと言われるのは全国規模の大会で優勝を目指すような選手のことを指すし、単純にアスリートというと競技者という捉え方かなと思います。

【松井委員】

地域スポーツとトップスポーツを支援とあるが、トップスポーツとは。

【折戸スポーツ文化課長】

アスリートというのは全体的に競技者全体を指した言葉で使わせてもらっています。その中でもトップレベルのアスリートがトップスポーツに関わる各選手と、地元で競技者としてやっている選手、つまり地域スポーツとしてやっている皆さんの両方に対して支援をしていきたいと思いますという意味でこの言葉を使わせてもらっています。

目標はアスリートとくくってありますが、説明ではレベルの高い方と通常のところと含めて書かせてもらいました。

地域とトップの使い分けは単純にトップといえはプロスポーツ的な、競技の世界の中でも上の方とか、トップアスリートという言い方がよかったのかもしれませんが、地域スポーツと書いたのでトップスポーツに合わせたところはあるかもしれません。

【山本教育長職務代理人】

地域とトップと並べただけのことですね。だからトップスポーツというとPFUブルーキャッツとか。

【山越教育長】

地元でいえばそうですけど、間接的にツェーゲンとかいろんなどころでの関わりはないではないです。意味としては競技者をしっかりと支援していくことを言いたいのですね。

【折戸スポーツ文化課長】

そうです。

【山本教育長職務代理人】

これからアスリート競技者という意味だとすると、100日体操している人達は個々の項目に入ってこないわけですね。

【折戸スポーツ文化課長】

それはライフステージに応じたスポーツになります。

【山本教育長職務代理人】

ここはアスリートだけが対象ですよとなればそれでいいので、じゃあ他の人はどこになるのといったら4番になりますよとなればそれでいい。3番というのはそれがアスリートというのはあくまでも競技者ということですね。

【折戸スポーツ文化課長】

そうです。そういう意識でもって前段のところでは総合体育館などの施設環境の整備という部分と組み合わせていただいているということです。

【山本教育長職務代理人】

全ての運動をしている人たちが支援してもらえるとということですね。

【山越教育長】

今、重点目標として掲げているのは12月の予算要求の説明をしたこととの関連もあってこの目標を書いているのですが、1月中には予算編成が最終的に決まって、場合によっては要求していたが予算につかなかったとか、この文言がまた変わるかと思うので今皆さんからいただいた意見を踏まえて例年そうしていますが、少し継続審議ということで2月の教育委員会で最終的に予算の決定見ただ中でおっしゃられたご意見を参考に見直しさせていただきたい。

【山本教育長職務代理人】

見直しをするということであれば、先ほど言った学校教育の働き方改革の推進が徹底ということになった。それから生涯学習の公民館活動の検討が推進になった。国際交流の多文化共生社会の推進というのがあるのですが、今年目標であれば国際交流の推進と多文化共生社会の実現になっていました。だから多文化共生社会が推進になったのは実現から目標が下がったという理由は何かしかりと説明をできるようにしてほしいと思います。

【新田生涯学習課長】

実現とはある意味完成形なのですけれども、多文化共生自体がずっと進行形なものである中で実現というのは、そこで完結するというのは大変難しい。継続した形で押し進めていかななくてはいけないので、引き続き進んでいくという意味で表現のしかたを変えさせていただきました。

【山本教育長職務代理者】

実現といったら目標の一步手前という目標になっていたものが、推進に変わったというのは、大きなものだと思うのでやはりその辺が納得できるような説明ができるように、あんまり言葉的にばかり捉えたくはないのですが、やはりそういうことによって目標を作った人の覚悟とかそんな部分が表れてくるのでよろしくお願いします。

【山越教育長】

議案第1号 令和3年度かほく市教育目標については継続審査としたいと思います。よろしいですか。

(異議なし)

【山越教育長】

それでは、議案第1号 令和3年度かほく市教育目標について、継続審査といたします。

協議・報告事項

- (1) 第17回かほく市成人式参加状況について
- (2) 令和2年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費1月認定結果について
- (3) 特認校制度について
- (4) 学校訪問のまとめについて

【山越教育長】

次に、協議・報告事項に移ります。協議報告事項の1点目の第17回かほく市成人式参加状況について、事務局から説明願います。

【新田生涯学習課長】

(第17回かほく市成人式参加状況について説明)

【山越教育長】

説明が終わりました。委員の方から質問、ご意見はありませんか。

(質疑なし)

【山越教育長】

次に、2点目の令和2年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費1月認定結果について、事務局から説明願います。

【本山学校教育課長】

(令和2年度要保護及び準要保護児童・生徒就学援助費1月認定結果について説明)

【山越教育長】

説明が終わりました。委員の方から質問、ご意見はありませんか。

(質疑なし)

【山越教育長】

次に、3点目の特認校制度について、事務局から説明願います。

【本山学校教育課長】

(特認校制度について説明)

【山越教育長】

説明が終わりました。委員の方から質問、ご意見はありませんか。

【松井委員】

県内の特認校が紹介されていますが、その実績は把握されていますか。

【本山学校教育課長】

小学校1校に確認させていただきましたが、今年度は各学年1名から3名の計9名がこの特認校制度により就学しているとの事です。

【山越教育長】

あくまでも、市内の児童で通学区域を指定していたものを、特認校にすれば市内のどこからでも、その学校に入学できるという制度になります。

これを進めていくうえでは、学校運営協議会とか地域の理解が必要になります。賛同が得られれば、令和4年度から特認校の取組を進めていければと思っている。

【松井委員】

特認校にすることによって、何かレッテルを貼られるような特認校であってはいけない。学校の特性を生かした教育活動に魅力を感じて入学してくるようであってほしい。

【山越教育長】

まずは、現時点で特認校について、検討を始めていくという事で、お話をさせていただいた。

次に、4点目の学校訪問のまとめについて、事務局から説明願います。

【中島学校教育課指導主事】

(学校訪問のまとめについて説明)

【山越教育長】

説明が終わりました。委員の方から質問、ご意見はありませんか。

【松井委員】

金沢教育事務所の方から外国語について、何か指導等ありましたか。

【中島学校教育課指導主事】

外国語については、宇ノ気中学校校区の中で、実践していただいていることを2月17日に報告会で広めていただくことを予定であります。今年度については、コロナの影響により、発表会というものができませんでしたが、授業公開をしまして、高松校区、河北台校区の先生にも参加いただき、授業の内容を広めていただいております。

しかし、金沢教育事務所の指導主事も学校訪問で、本当に伝えたい言語活動というものを実際に授業の中でしていただくということは、まだまだ不十分であるとお話がありました。これは、かほく市だけではなく、県全体でも同様の課題があるということでもあります。

【山越教育長】

その他、ご意見がないようでしたら、その他に移ります。

その他

【山越教育長】

その他ということで、事務局から説明願います。

【新田生涯学習課長・北川学校教育課参事】

(2月の行事予定、卒業式等の日程について説明)

【山越教育長】

(次回開催日は、2月16日(火)午後3時00分からで決定)

閉 会

【山越教育長】

以上で、令和3年第1回かほく市教育委員会を終了します。お疲れ様でした。

午後3時30分 閉会

教 育 長 山 越 充

署名委員 松 井 三 枝 子

署名委員 長 柄 悦 子